

27PE-am083

プロポリスとC₆H₈O₇の抗鳥インフルエンザウイルス剤への開発

○山川 秀樹¹, 池田 一彦², 平野 実², 糸川 由佳¹, 具 然和¹(¹鈴鹿医療科学大学(院), ²(株)トーワ(研))

【目的】プロポリスとC₆H₈O₇に対する抗鳥インフルエンザウイルス薬剤の効能に関する有無について検討した。

【方法】ICR マウスとC3H マウスを用いてプロポリス、C₆H₈O₇の抗鳥インフルエンザウイルス不活化薬剤としての殺菌、抗ウイルス効果についてその有効性を検討した。クエン酸+プロポリス(2:8)を500mg/kg投与した。Control群においては、蒸留水を同量経口投与した。血球測定群は、投与開始後2週間後に2Gy全身照射し、尾静脈採血で白血球数、リンパ球数、単球数などを測定した。また、マウスの心臓採血においては、リンパ球中のCD4、CD8、CD16を測定した。更に、眼底採血からIgG及びSODを検討した。

【結果及び考察】Control群に対してプロポリス、C₆H₈O₇では、Total IgG、NK細胞の活性、CD4、CD8、CD16の活性が認められた。鳥インフルエンザの感染症を予防するために、感染の防止、養鶏場のウイルス浸潤の早期発見、ワクチンの使用などがある。しかし、抗鳥インフルエンザウイルスの除染のための天然物の研究は皆無である。従って、本研究では、プロポリスとC₆H₈O₇の抗菌作用が明らかにされた。本研究により、クエン酸とプロポリスのウイルス増殖抑制効果が示唆された。